

産経日曜版

島を歩く  
 酒を造る  
 翼の佐渡島  
 日記

産経新聞社がオリジナル酒「辛口産経」を造るプロジェクトが2年目を迎える。新潟支局、松崎翼記者が24が佐渡島の魅力を探る2回目は、首都圏から佐渡島に移住した人たちを訪ねた。

佐渡島西部、真野湾に面した丘の上に、佐渡特産品を売る「しままるしえ」がある。もち米に干し柿を混ぜてつ



柿餅を製造・販売する五十嵐敏郎さん(右)と尚子さん(左) 新潟県佐渡市のしままるしえ



# 移住者目線で見つかる魅力

## 「全てが東京発信」に疑問

き上げる佐渡の伝統的なおやつ「柿餅」を販売する五十嵐敏郎さん(67)、尚子さん(62)夫妻を訪ねた。

敏郎さんは平成21年、金融機関を定年退職。尚子さんの両親とのんびり暮らそうと、千葉県から尚子さんの故郷、佐渡に移住した。だが、島の暮らしか豊かな食材を見て、「島の食文化を守りたい」と考え、翌春、「佐渡の柿餅本舗」を立ち上げた。

現在は柿餅のほか干し柿とユズを使った和菓子など8商品を製造・販売している。夫妻は佐渡の魅力について「本音で話し合える気持ちのいい人ばかり」と声をそろえる。敏郎さんは「だから佐渡でまずい酒を飲んだことがない」と笑顔を見せた。

「30年ぶり復活」

約30年前に映画館が消えた佐渡に今年4月、金山で栄えた相川地区の旧鉢山長住宅を改造したシネマカフェ「ガシマシネマ」が開店した。

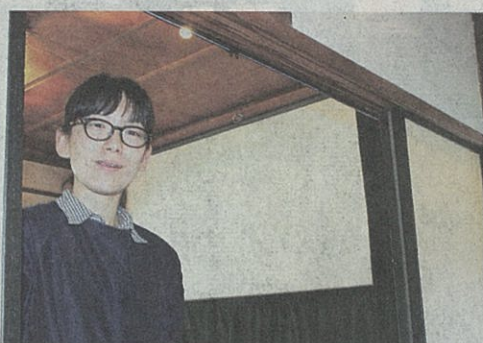
和室にソファを置き、コーヒー片手に映画を見るちよつと不思議な空間。上映作品も『創造と神秘のサグラダ・ファミリア』『ニューヨーク

眺めのいい部屋売ります』など通好みのラインナップだ。主宰する堀田弥生さん(41)は福島県出身。東京の映画館で働いていたが、落ち着いて子育てをしたいと22年、知人の誘いを受けて、2人目の出産を機に移住した。堀田さんは「穏やかな自然が佐渡の魅力。イノシシやクマの心配をせずに山で遊べたり、子供は海で素潜りをして貝を捕って食べたり」という。

「将来は映画を見るために佐渡を訪れてもらえるよう情報発信したい」と意気込む。

「金にならない?」

6月上旬、辛口産経の提携先、尾畑酒造が運営する学校



和室を改造した映写室を案内する堀田弥生さん 新潟県佐渡市のガシマシネマ

講義を聴きながら、堀田さんが語った「全ての文化が東京から発信されて波及していくのは面白くない」という言葉を思い出した。視点を変えると、自らの価値観で情報を発信していくことではないか。食文化を守りつつ新しい佐渡の特産品を作る五十嵐さん夫妻も同じ姿勢だろう。

移住者だからこそ見えた佐渡の魅力。もっと知りたいと思った。

(松崎翼、写真も)

第3回は9月3日掲載予定